

今後の大震災対策として期待

東日本大震災において被災された多くの方々に、心からお見舞いを申し上げます。また亡くなられた多くの方々、いまだ行方不明の方々に哀悼の意を捧げます。

日本透析医学会では平成23年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災から学んだことを、今後の透析医療に生かしていくことを目的として、日本透析医学会、日本透析医会、日本腎臓学会、日本臨床工学技士会の4団体の代表者に被災地、支援地の代表者を加えた12名をメンバーとし、平成23年10月に東日本大震災学術調査ワーキンググループを組織しました。調査の内容は、日本透析医学会統計調査委員会による平成23（2011）年末調査の震災関連調査の結果を解析することにより、東日本大震災において被災地の透析医療がどの程度障害され、どのようなことが問題になったのか、そして全国的にどのような支援が展開され成果はどうだったのかとの内容であります。さらに被災地、支援地の現場で実際に活動された先生がたのご報告、ご意見を加え、今後想定される大災害時の透析医療への提言が行われています。今回の提言をもとに、各透析医療施設での防災対策やライフラインの確保、被災地での透析医療、患者移送ならびに支援地での透析医療、被災時における人員や物資の支援、被災時の患者ケアなどについて普段より対策に心がけていただくことをお願いいたします。

今後も被災地から避難をされた透析患者さんが、その後どのような経過をたどられたのか、あるいは予後への影響など、大震災に伴うさまざまな長期的問題について調査を続け、透析医療における大震災対策マニュアルともいえるものの作成に向け、調査内容の完成度を高めていきたいと考えています。

今回の東日本大震災学術調査結果報告書に基づく防災対策が、今後想定される大震災の対応策として役立つことを期待しています。

一般社団法人日本透析医学会

理事長 水口 潤（川島会川島病院）